

HSK リカバリーニュース



とがちダルク ニュースレター

INDEX

1. ご挨拶
2. 福祉サービスよもやま話
~その2~
3. NA コンベンション参戦記
- 4-5. 活動報告 (研修旅行)
- 6-7. 仲間の話
8. 編集後記



リカバリーニュース 第20号
 発行日：2017/8/10
 発行：NPO 法人とがちダルク
 TEL：0155-67-0911
 FAX：0155-67-0912
 HP：http://tokachi-darc.org

だな日ケフた「Sをシ北 思さ見一いが中たしに初ン大 がそし機そ訪 な
 ささだ | アだ「松M開ヨ見まいくつ度、`12とた乗めシ阪さでうたをうれおつ
 といまけジ | き「本A催ンでたまとか行再行回思がりてヨでてきで。回暑を盆て皆
 か。是非 | します。Rいフ「第12。何なた、た参加するなすにれ月寂、しのくまぎます。大
 ち。おてルし。Pし | ます。Pを開発されたは、くは。い、なす。と小か。会す回つで機。べに。とばで風はの
 ダルク 宿輪龍英

昭和 48 年 1 月 13 日 第三種郵便物認可
 HSK 通巻番号 545 号 (とがちダルク 第 20 号)
 発行 平成 29 年 8 月 10 日 (毎月 10 日発行)
 定価 100 円 (会費に含む)

編集人 住所 北海道帯広市西 12 条北 1 丁目 13
 団体名 特定非営利活動法人 とがちダルク
 TEL 0155-67-0911
 発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

NAコンベンションとは

とがちダルクに通所する人たちは、NA（ナルコティクスアノニマス）と呼ばれる、薬物に問題を抱える人のための自助グループに毎日通います。NAは全国にグループがあるのですが、年に一度集まって、回復を分かち合う催しがNAコンベンションです。毎年開催される地域が変わるので、参加する人は旅行のように楽しみにしています。

☆☆NAコンベンション参戦記☆☆

今年の7月の20日～23日まで大阪で行われたNAコンベンションに参加してきました。今回は第13回目の開催です。

私個人は13回中1度だけ沖縄のコンベンションだけ不参加で、それ以外12回すべて参加しております。第1回は平成12年、第4回までは東京代々木のオリンピックセンターで行われ、第5回は名古屋。そのあと第6回横浜、第8回仙台、第9回京都、第10回東京、第11回福岡、第12回札幌に参加しております。第6回の横浜からバンドで参加しております。

最初のコンベンションは本当に義務的な参加でつまらなかったんですが、行けば行くほどよくなってきております。仙台、福岡ではスピーカーもさせていただきました。仙台はホームレスになり放浪した地で、福岡は九州の佐賀生まれの私にとっては感慨深いものでした。

今回のコンベンションは一千人を超える参加者があり、延べで三千人を超えるということでした。ライブも250名以上が参加したとのことでした。

帯広にNAができたのが6年ほど前で、最初は3人しかいませんでしたが、先日のバーズデーミーティングはノンアディクトも含め20名の参加でした。帯広においても少しずつ発展している感があります。

一緒に行った仲間も、他のダルクに移りたいという希望があり、全国のダルクの施設長に声をかけて、ことごとく断られて、撃沈して、グリグリになりながらも現実がやっと理解できたようです。

さて来年は地方一巡して名古屋開催になります。どういうドラマが待ち構えているのでしょうか？

アール



↑今年のテーマ



福祉サービス よもやま話 ～その2～

前号掲載した「福祉サービス よもやま話」ですが、思いの外反響がありました。よもやま話としてお伝えしたいネタは幾つかあるのですが、今回はとある刑務所を出所した後、とがちダルクにつながった仲間の話を担当者に聞いてみましたので、その話をサクッと掲載します。
※今回の仲間は、出所して自立準備ホーム利用後に生活保護を受け、福祉サービスの支給決定を受けています。

「こんにちは。今回は〇〇さんについて聞きたいと思いますので、手短かにお願いします。」

「〇〇さんですね～。〇〇さんがとがちダルクと連絡を取り合ったときから説明すればよいですか。」

「いえ、長くなるので、△△刑務所を出所した日から手短かにざっくりお願いします。」

「あ、はい…。〇月×日朝、△△刑務所にスタッフが迎えに行きました。出所後、更生緊急保護を受けとがちダルクの自立準備ホームを利用することになってたため、私がパトタッチして、本人と釧路保護観察所常駐官事務所に行きました。」

「生活保護との兼ね合いはどうなっているのですか？」

「更生緊急保護と生活保護は同時に受けることはできないですよ。そまそまの扱っている…」

「あ、難しい話はいいです!! 〇〇さんの続きをお願いします。」

「あ、はい…。生活保護の他法（他方）優先※もありますが、〇〇さんが自立準備ホーム利用後の生活をどう考えるかによって対応が変わるんですよ～」

「本人の希望も重要になると。」

「自立準備ホームの利用を終えた後もとがちダルクを利用し続けるのであれば、前号で話題にしたような福祉サービス申請手続きが必要になります。そうでなければ、希望地への異動手続き等をお手伝いしますね。」

「詳しくは読み返してみなくちゃ! それで?」

「〇〇さんはとがちダルクを利用し続けることを決めました。しかし、自立準備ホームは医療費のサポートがないんですよ。無料定額診療という制度が利用できるのですが、福祉サービスを申請するためには、どうしても無料定額診療を実施していない病院での受診が必要になります。そこで、生活保護医療扶助申請を申請することにしました。」

「病院ひとつがかるのも複雑... 目が回る。」

「その後、診断書等を準備した上で、援護の実施者（支給決定をしてくれる自治体）と福祉サービスのやりとり、生活の場が確定した段階で、自立準備ホーム終了後に生活保護の本支給となるよう手続きしました。」

「ほほー、いろいろ考えながら手続きをするんですね～（お話し長いなー聞いてきたな～）」

「そうなんですよ～。書類等の整備もあって…」

「あ、もういいです!! ありがとうございます。」

「あ、あい…」

つづく…といいな

※生活保護には「他方他施策優先の原理」があり、生活保護法第4条に規定されています。生活保護を受ける前に、利用できる資産や扶養、扶助を、まず活用してくださいということです。

活動報告

〈夏季研修旅行の巻〉

8月8日から8月10日まで「とかちダルク夏季研修旅行」に行ってきました。総勢20名ほどの参加者でした。

とかちダルクの利用者以外にも、支援者、理事、活動に理解ある方々が参加されていて、いつものように賑やかな研修となりました。

宿泊先はとかちダルクができる前から利用させていただ



2日目は朝宿を出発し、ファーム富田―旭川(昼食)―旭山動物園―美瑛と周りしました。旭山動物園を出る少し前に、雨に降られたので美瑛散策はほんのわずかになって残念でした。

そして、夜は旭川保護観察所で、主任保護観察官をされており、今年からとかちダルクで理事に就任された「畠山茂祥」さんにご講演いただきました。畠山さんが20年近くに渡ったの保護観察所での業務、感じたこと、思ったこと分かりやすく、時にはユーモアも交え話していただきました

いている中富良野の民宿です。

当日は、とかちダルクを出発して狩勝峠を経由して、みなみふらので北見から今回初参加である『北見日本赤十字看護大学』の吉谷優子先生家族と合流しました。

その後、まず『北の国から』の舞台となった「麓郷の森」で1日目の講師であるしおちゃんこと「塩谷隆治」さんと合流し、拾って来た家・吾郎さんの家・石の家を散策して回りました。



話の中でもう6、7年前から畠山さんが私「宿輪」のファンだった事実を知り驚きました。

その後、参加されている理事で札幌のクリニックにPSWとして勤務されている「佐々木渉」さんと「吉谷優子」先生にも一言ずつ話してもらい、私の話で締めさせていただきますました。

初めて話をしてもらった畠山さん、無茶振りにもかかわらず、快くひきうけていただき本当にありがとうございました

実はとかちダルクでは、この日のために、3ヶ月以上前から日中のプログラムで週に2回、北の国からのビデオを鑑賞していました。

このドラマは何度見ても感動するものであり、毎年富良野に旅行するのなら、あらかじめこのような情報があれば行った時の感覚も必ず違うものだと思います。このドラマは北海道の厳しさ、春の暖かさ、人が成長していく様が描かれており、仲間の



した。

こうして、無事に2泊3日の研修旅行は終了いたしました。

この旅行を通して、日頃触れ合うことのない北海道の大自然、動物、シラフでも意外に楽しいんだという事実を少しでも感じていただければ幸いです。

アール

成長に少なからず役立つとも確信しております。

その後、宿に着き一休みした後夕食を食べ、しおちゃんに元氣アップの講座をやっ



同じポーズの
アールを探せ!



夕力

北海道に来てから、早いもので季節をひと回りしたので、今回は冬のことうについて書きたいと思います。

北海道の冬はものすごく寒い、いや冷たい(笑)ですが、建物に入ると暖炉みたいなストーブがあり、めっちゃ暑いので、みんな半袖短パンでいます(笑)。消さないもったいないのではと思います。消すと急激に冷えるので、北海道は暑いからいストーブをつけるのが当たり前だそう。まあ僕も暮らしていて、一理あるなと思います。でも暖房費がバカにならないので、温度を下けた方がよいのではと思います。北海道の文化だと言われたとき、妙に納得してしまいました(笑)。さすがに文化は変えられないなと思います。

はねあがる暖房費の謎が解けました。

龍華

2年ぶりにダルクに帰ってきました。最後にダルクを飛び出してから、早いものでもうこんなに過ぎてしまい、私は心も体もポロポロになり、ダルクに繋がってた時よりも落ちてしまいました。

プログラムの途中で逃げても、嫌な思いをするし、苦しいことはわかっていたけれど、私の中にある病気には勝てませんでした。真面目に取り組んでいけば、病気が出た時でも対処法があったと思います。私はずいぶん前に深くプログラムに取り組んでいなかったの、病気に負けて、プログラムからも自分からも逃げたしまいました。

しかし今は、まだ3ヵ月しかいませんが自分を变える努力を怠らなく、苦しいこともあり、今は仲間と笑い合う日が増えてきました。この笑顔をお忘れずに生活したいです。



ケン

自分は20年前富良野に住んでおり、北の国からの口ケ地には何度も行ったことあり、ほとんどわかっていることばかりでした。南富良野も、昔より時代が変わっていて、自分も年を取ったんだと思えました。旭川の動物園を見るより、元ヤクザの人達に会うんじゃないかと思ひ、カツラで変装して行きました(笑)。

旭川、札幌はやっぱり良いなと思ったのが今の気持ちです。今はダルクで生活しており、これからの人生を楽しくできるようにするために、今日一日と頑張っている今日この頃です。人生は一度だから、楽しい日を送れるようにしたいです。今は何もできませんが、夢をもって生活することにします。

シゲ

とかちダルクに来て4年が経ち、色々なことがありました。仲間が出て行ったり、スリップしたり、入院したりもしました。十勝の冬はとて寒く、大雪が降り、体調が悪くなることがあります。

るくらで働いていたのですが、今はデイクアで過ごしています。すごく新鮮な気持ちで、ミーティングにも参加し、楽な気持ちで過ごせます。るくらではひとりぼっちでいましたが、デイクアではみんなとけっこう楽しくやっています。

この前は歯が痛くなり、歯医者で歯を抜きました。この原稿を書いている日も、歯を抜きに行っています。

コウ

ダルクへ来て1年が過ぎました。決して平凡な毎日ではなく、その時々で自分の問題に取り組みながら生活しています。

今は減薬に取り組んでいるのですが、苦戦しています。以前、薬を減らそうとしたら具合が悪くなり、逆に処方薬が増えてしまったことがあったので、今回は主治医や薬剤師に相談してアドバイスももらいました。精神科の薬の調整は、月単位、年単位で考えたほうが良いと教えてもらったので、焦らずゆっくり取り組んでいます。

最近、体調があまり良くなってしんどい思いをしています。夏場に調子が悪いのは毎年のことなのですが、体調の変化にパターンがあることに最近気づきました。どうにか工夫して、調子の悪い日を短く、調子のよい日を長くできればと思います。

カズ

先日、研修旅行に参加しましたが、みなさんの興味深い話を聞いて楽しく過ごしました。それぞれ色々な過去を持ち、色々な考えを持っていることがわかりました。

また、レクレーションで釣り大会に参加して3匹も釣り上げてチャンピオンの座に輝き、嬉しく思います。

今の生活では、みんなと一緒に覚醒剤やアルコールを辞めてゆくことの重要性和、一人で辞めることの難しさを知りました。あの人も頑張っていると感じることで、それを力にしながら生活してゆきたいと思います。ここにいる間よりも、出てからの生活が大切になってくるのだなと思います。

あつちゃん

今年の宿泊研修はとても良い旅行になりました。1日目は北の国からの口ケ地に行って、五郎さんの家に入ったり、バスで作った家を見たり、草原を歩いてきました。

それから宿に着いて夕食を食べたあと、食堂でおちゃんの講演を聞きました。それから風呂に入って一人で感激していました。

2日目はラベンダー畑を見て、とてもきれいで感激しました。その後旭山動物園に行きました。今回で3回目ですがとても面白かったです。

夜は札幌の佐々木さんの話を聞いて、とても良かったです。

エイキ

入所して早6ヵ月が経ちました。施設長をはじめスタッフや仲間とも仲良く生活しています。

今年の夏はイベントが満載で、初めて大阪のコンベンションに参加し、暑くて人が多いのにビックリしました。

富良野の研修旅行にも行きました。富良野の街や、五郎さんの家などの口ケ地、ラベンダー畑を観て感動しました。

僕は施設が3度目ですが、前の施設ではこんなにイベントはありませんでした。だからとかちダルクに来て良かったと思います。

これから秋になりますが、体に気を付けて頑張っていきたいです。寒い冬もやってきますね?体調に気をつけていきたいです。

今ではとかちのマッシュロマンです。

ゼロ

今回、大阪のコンベンションに参加しました。関東に住んでいた頃は、野宿をしたり、大勢の仲間達と分かち合ったり、楽しかったです。

北海道に来て、夏場に体調を崩し、東京のコンベンションには行けませんでした。僕は毎年夏になると、おかしくなり、いつもおかしいのですが(笑)。北海道のコンベンションでは、頭を金髪にしてハイテンションでした。そのあと落ち込み、アディクションが食べ物に変わり、ハンバーガーを1日に7個食べ続けた結果、120キロまで育ちました。トホホです。

大阪では、もう死んでしまったかと思っていた仲間にも会えました。その時、神様に、仲間にお世話してくれて本当にありがとうございますと祈りました。ミーティングでのメッセージがたくさん聞けて、とても良い気づきがありました。

蓮

とかちダルクに来て、2年半が経ちます。私は自我が強いので、なかなか回復のレールに乗れない気がします。ちよつとしたことで腹が立つたり、イライラしたり、仲間と少しばかりの不平不満を感じると、そのことにものすごく気を取られてしまうところがあります。

今はそのことについて向き合っていく時期なのだと思います。やはり自分で気づいていくのは限界があると思います。

人に相談したり、助けを求めるときも必要だと感じています。今まで、私は、自分で考えて行動して失敗してきました。これから同じ失敗は繰り返したくないと思っているので、そのためには人の話を聞く耳を持つことが必要で、ミーティングでの仲間の話やスタッフの提案を聞き入れていくのが、自立への近道なのではと思っています。

自分も、早く社会に出て、働いて、様々な迷惑をかけてきた母親に親孝行したい気持ちもあるから、「今日だけ」を頑張る、今の時間を大切に生きていきたいです。

会員入会と寄付のお願い

会員募集

とかちダルクでは、随時会員を募集しております。私たちの活動にご理解をいただき、少しでもご協力いただける方の入会をお待ちしております。是非、ダルクの会員となり、活動や運営を支えていただきたいと思います。

ご賛同いただける方は入会申込書に必要事項をご記入の上、会費の納入をお願いいたします。なお、郵便局でお受け取りになる振替兼受領書をお持ちして、領収書に代えさせていただきます。領収書が別途必要な方、匿名希望の方は、通信欄にその旨をご記入いただきますよう、お願い申し上げます。

寄付のお願い

とかちダルクの活動は、公的資金だけでは全てを賄うことができず、生活保護申請から決定に至るまでの生活費等をダルクの資金で賄ったり、着るものもなく入所する人をサポートしたりしています。そこで、一般の寄付を会員募集と併せてお願いしております。少しでもご協力していただければ幸いです。

日用品や食料品、消耗品のご寄付も受け付けておりますので、何卒よろしくお願ひいたします。

※なお、大変恐縮ですが、発送作業の簡略化の為、全員の方に郵便振替用紙を同封させていただいております。どうぞご理解ください。

連絡先 0155-67-0911

編集後記

前回のニュースレターを発行した際に、思いがけずたくさんの方の反響をいただきました。毎号、掲載する記事を考えるのはもちろんですが、読んでくださる方に面白いと思ってもらう工夫をするのも、骨の折れる作業です。仕事ですから淡々と行うのですが、それでもこのような見返りは大変ありがたい、編集に携わったスタッフも喜んでいました。「面白い」という言葉には、笑える、明るい気持ちになるという意味の他に、興味関心を抱く、学びになるという意味も含まれています。他のダルクや事業所の取り組みからは、いつもたくさんの方のヒントをいただいています。とかちダルクから皆さんに開示できる情報の中に、誰かの役に立つものがあれば良いと思いつつながら編集しています。地域の中になら、一歩違えば閉鎖的になりがち。な施設ではありませんが、社会との繋がりの一役を担うという意味でも、このニュースレターが持つ役割の大きさを感じています。

渡部

HSK リカバリーニュース
昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
HSK通巻番号545号（とかちダルク 第20号）
発行 平成29年8月10日（毎月10日発行）
定価 100円（会費を含む）

編集人 住所 北海道帯広市西12条北1丁目13
団体名 特定非営利活動法人 とかちダルク
TEL 0155-67-0911
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会（HSK）